

2018年度 卒業生答辞

春が深まり始め、風に温かさを感じる季節となりました。

私たち卒業生一同は、今日この日をもちまして、神奈川大学を卒業します。

この学生生活最後となる良き日に、お忙しい中、ご列席くださいました諸先生方、ならびに御来賓の皆様、厚く御礼申し上げます。

また、このように素晴らしい卒業式を挙げてくださったこと、そして先生方やご家族の皆様、並びにこの日まで私たちを支えてくださった全ての方に感謝申し上げます。

今日という日を迎えられたことを心より嬉しく思います。早いもので、私たちの四年間の大学生活は終わりを迎えました。期待と不安いっぱいの中始まった大学生活ですが、4月のオリエンテーションの時の緊張や、初めて友達ができた時の嬉しさは今も昨日のこのように思い出せます。

神奈川大学での4年間には、本当にたくさんのかげがえのない出会いがありました。

私事ではありますが、まず学びとして、勉強することの楽しさを知ったのはこの大学で学び始めてからでした。仲間と一緒に学び、考え、自分の意見を持つこと、また、友達同士で教え合い、時に議論を交わし学びを深めていく過程は、私にとっては初めての経験で、とても新鮮で何より楽しい時間でした。また、自身の将来の夢について本気で語り、その理想や考えを共有したり議論するなど、互いを理解し合える仲間と出会えたことも私にとって大きなものでした。

そして何よりも、自身にとって財産となったのは、いつも困難と出会った時でした。特にゼミナールのグループ研究では、将来の夢もやりたいことも異なる仲間たちと同じ目的に向かって考え、準備し、確実に進めていくことの難しさや自身の考えの偏りや弱さ、未熟な部分を身に染みて感じました。そんな時、ゼミナールの指導教員である瀬戸先生は「いつも一人でできることばかりではなく、これから先もっとグループで取り組んでいかなければならないことが増える」と仰っていました。今なら、その言葉の真意が私にもわかります。自分が思う通りに進めることばかりではなく、むしろ、そうでないことのほうが多い。大切なのは、その場その場で、自分が如何に人と接し、協力し合っていくか。

その為にまず、純粋さを持って、より広い視野を持つため、一步後ろに引いた位置から客観的に物事を捉えていくことが大切さなのだと学びました。これから先、私たちが直面していく世界は 想像を越えて広がっていくことでしょう。

そして、そこにはたくさんの出会いがあり、その中には多くの困難があると思います。そんな時、物事をどう捉え、考え、行動していくのか。

新しいことと出会うたびに、これからも一生勉強であると思いますが、困難と出会ったときこそ、自分の弱さと向き合い、試行錯誤の中で、私自身が生まれ変わるチャンスなのだと信じ、乗り越えていきたいと思います。神奈川大学での多くの出会いと学び、そして夢を語り、仲間と笑い合った時間は私の宝です。

しかし、決して忘れてはならないのは、私が困難に出会った時、私は一人ではなかったことです。私が悩み、苦しんだとき、いつも友人や先輩方、そして瀬戸先生をはじめ先生方や家族のみんなが私を信じ、支えてくれました。そんなかけがえのない時間と、困難に立ち向かう勇気をくれた、友人やゼミナールの仲間、瀬戸先生、そして先輩方、並びに先生方、加えていつも支えてくれた家族、皆様にこの場を借りて感謝を伝えたいと思います。本当にありがとうございました。そしてこれからもどうぞ、よろしくお願いします。

また、私と同じく今日この場にいる卒業生には 感謝の気持ちを伝えたい方々が多くいらっしゃると思います。卒業生を代表して、この場をお借りし、温かく指導して下さった神奈川大学の諸先生方や先輩方、卒業生一同を親身になって支えて下さった事務職員の方々、精神的、経済的に私たちを支え、育てて下さったご父母の方々、並びに、ご多忙の中ご臨席いただいたご来賓の皆様にご心よりお礼申し上げます。

皆様、四年間私たちを温かく見守り、時に優しく時に厳しく支えてくださり、本当にありがとうございました。大学生活でのこの日々を胸に、新たな一步をしっかりと歩んでいきたいと思います。以上、お別れとお礼の言葉とさせていただきます。

2019年3月19日

卒業生代表 人間科学部 人間科学科 4年 樋口佳子